

脳・心臓・血管

ワースト脱却処方箋

from 獨協医大



竹川英宏教授

脳梗塞 (上)

72歳の男性は特に持病もなく病院知らずでした。

ある日の夕方、いつも通りに農作業を終えて帰

ろうとすると、「突然」足の力が抜けて転んでしまいました。携帯電話で奥さんに助けを求めましたが、「左手の力も入らず」「ろれつも回らず」うまく説明できません。おかしいと思った奥さんが急いで駆け付けると、本人の「顔」は左側の口が下がり、ゆがんでいて、左側の「腕」の力がなく、自分で体を起こすこともできませんでした。

一体何が起こったのでしょうか？

「突然」症状が出現(寝ているときに起こった場合は目が覚めたときに気付く)し、「顔」の異常(ゆがみ、歯を見せる、笑うなどで見つけやすい)、「片側の腕」の異常(力が入らない、多くは同じ側の足の力も入りにくい、手のひらを上に腕を真っすぐ伸ばすと、

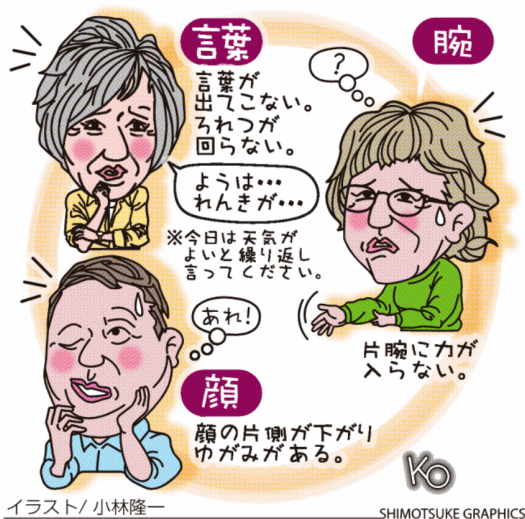
突然の症状、時間との闘い

手のひらが下の方に向く、腕が落ちる)、言葉の異常(ろれつがおかしい、言葉が出ないなど)が一つでもあれば「脳卒中」の疑いがあります。

この患者さんは検査の結果、脳卒中の一つで、脳の血管が詰まる「脳梗塞」と診断されました。

患者さんがすぐに奥さんに連絡したこと、奥さんがすぐに駆け付け、救急車を呼んだことで、症状出現から1時間で病院に到着しました。このため脳の血管に詰まった「血栓(血の塊)」を溶かす治療(注射と点滴)ができました。すると40分ほどして言葉がしつかりし、左側の手足の力も戻ってきました。

この治療は「血栓溶解療法(rt-PA静注療法)」といって、発症から時間があまりたっていない、かつ大きな脳梗塞が完成していない患者さんにしかできません。



では、どのくらいの時間までなら治療できるのでしょうか。答えは症状が出現してから4・5時間までです。診断と治療の安全性を判断するのに30分から1時間かかります。つまり「症状が出現してから3・5時間までに病院に到着する必要がある」があります。

もし症状の出現時間が分からない状況(目が覚めたときに気付いた、倒れているところを発見されたなど)でも、検査の結果によっては治療ができることもあります。

幸いこの患者さんは治療がよく効き、わずかに左手の力が弱い後遺症を残しましたが、日常生活は不自由なく過ごされています。

突然、「顔」「腕」「言葉」の一つでも異常が出現したときは、迷わず救急車を呼びましょう！

(獨協医大病院脳卒中センター長 竹川英宏) (毎週金曜日掲載)